

深
民
記
全



特別
凡2
3116



門凡2
號 3116
卷 二

本書一名漂民傳覽記トイフ

- 一 漂流人口上書
- 二 松前勇之助ヨリ鳥居丹後守ニ傳書
- 三 鳥居丹後守ヨリ松前勇之助ニ被仰書付
- 四 海邊之領主地頭ニ被仰書付、其他思賞傳沙汰
- 五 唐太島ニ異國船ハ勃起事
- 六 蝦夷人ニ言書
- 七 魚曾西船長嶋入見聞書
- 八 魚曾西國書
- 九 市人ニ未狀書
- 十 魚曾西人ニ被仰書、江白表目付ヨリ被仰書
- 十一 松前宗上書
- 十二 蝦夷地ニ被仰書
- 十三 魚曾西人ハ勃起事

冊

100

魚曾西國書

魚曾西國書

寛政五年癸丑年九月十日

漂流人ノ言書 天明五年十月十日

防州白子出船往之松後以沖与俄大風候

於同日午卯七月廿日魚曾西連之屬

以力中使下流急使下力カソカレカ力

極事地經歷之歐羅沙カ力魚曾西連

於此由帝ノ身之御書法去子九月十日

子王口事ノ地速彼由之船

神皇元紀水鏡成者

上卷有之 沖物之山向 沖原野 沖邊見

有原 沖原を以て有之方 御之沖側

松平城守初朝遠河平園忠信高升主権正

別望其言曰浪を傳へ出納戸以て是并

後河守小跡河内守多紀水秀統持河内國別

是之爲の事と申す尋問を急ぐと今をさす

次は山内守中川勘定長船長右衛門尉世多入

今りの執事也 沖原北山原也 水鏡成者

出納の形格を以て沖白洲の底二柳が居る

彼少くも爲るに後を以て柳年の刻と初と

丁の古事な変更を以て古事な変更の断り

もとのことと云ふは後と後口と急用と事

卷の事理等と服按と襟と黄令と造り

半流のや物と御之能多と原莫似

制あるは同神の外套也由事也其の在り

風物と務を以て河内之流乃其の事

白雲奈の上と事 百尔雲草 澤中出

少平鼻の直に少平く角有る面解す乃
甲に少平筋を入建ばつら小筋と角の直と
生る筋の直と筋の直と筋の直と筋の直と
長サも守を建つておれは筋の直と筋の直と
常に少平く筋の直と筋の直と筋の直と筋の直と
毛を少平く筋の直と筋の直と筋の直と筋の直と
地は少平く筋の直と筋の直と筋の直と筋の直と
之と筋の直と筋の直と筋の直と筋の直と
筋の直と筋の直と筋の直と筋の直と
筋の直と筋の直と筋の直と筋の直と

加比丹官名則ニモシシホイナニ者少平く筋の直と筋の直と筋の直と筋の直と

心カ多地下連渡り通ヌイカウツカ多ク地ナ
四年滞り住居所実ナキ其外其外其外其外
外公儀の表を名一紙の皮を面を名目年
出た筋の直と筋の直と筋の直と筋の直と筋の直と
惟る少平く筋の直と筋の直と筋の直と筋の直と筋の直と
得其の直と筋の直と筋の直と筋の直と筋の直と筋の直と
筋の直と筋の直と筋の直と筋の直と筋の直と筋の直と
筋の直と筋の直と筋の直と筋の直と筋の直と筋の直と
筋の直と筋の直と筋の直と筋の直と筋の直と筋の直と

符
脱胎中既曰胎内胎在者若胎之胎也
作名彼書之醫師大角獨之身胎也其也
提切胎酒之液之木綿之切口也其也
黃藥之種子入胎中其勿痛瘵治者之體
中其食物之備之定之日其胎後在文書者
右之儀之牛肉之皮也其胎中其文之書
雜用十分之書其胎在右後胎之安之
胎月也其元子備之其胎年方其書其安
作胎商人之書其胎在右其胎之書其胎

何運商人之書其胎在右其胎之書其胎
日本陽之紅安胎胎在右其胎之書其胎
右之書其胎在右其胎之書其胎
一書其胎在右其胎之書其胎
建之書其胎在右其胎之書其胎
右帝之書其胎在右其胎之書其胎
右帝之書其胎在右其胎之書其胎
胎之書其胎在右其胎之書其胎
胎之書其胎在右其胎之書其胎
胎之書其胎在右其胎之書其胎
胎之書其胎在右其胎之書其胎

太平正三階の存市はも陳家秘の存市
 作板の存市はも長生家秘の存市はも
 中在道中或内造北条流矢伝の伝傳
 存去の存市はも家秘の存市はも

問

一 城樓の事自昭慶トケイの事

答

一 跡の外に送知の事存去の事
福程の事

問

一 城閣の上の魯西軍中其の帝伯多羅の像有る
存去

答

一 伯多羅の像の事存去の事
 徳石有る存去の事
 均存去の事
 吸存去の事
 殿存去の事

同

一 欠クニ大石火を去るべくゆん及の事

答

一 沈没入作向仰らるるを延命指先より引く事
長クの間中ニある事ハ因テ大瀧川在リ沈没處ニ
瀧ノ下ハ喰入者ハ固シク石垣と爲リ其時
下リ出ル事ハ難シク在ル事ハ大キキ事 経テ後
事ニ由ル事ハ日本ノ臣者自任シテ事者自任
トシテ事ハ少クおん事ハ

同

一 駝ハ見立程の事

答

一 ヤカウツカケイルカウツカハ東海道ニ在リ一柳花
リある事ハ大キク春に病ニしてハ沈没ノ事
多クハ頭ハ小キ物ニ由ル事ハ凡ソウタノ事ハ

同

一 安室新ハ此國同様ノ事ハ在リ物ハ多ク
この事ハ

答

一 此方之方名曰... 後物如神... 活中之神... 何處之身...

問

一 武藝之能...

答

一 右之神乃...

古往之人物... 傳之於神... 玉振為宗... 聖人之功... 神于白...

問

一 涉於事...

答

一 是之...

三流作の車は痛むに任馬の定に遊年よ
樂に肉に定人宛事の中程はと日車に所遊
甲事申成出所少帝に遊年よ
常より車より先帝前過以人立位より
江地海終餘程お見よ

同

一首に定に何とては胸に抱く物に何と作ら

卷

一 胸に抱く物に何とては胸に抱く物に何と作ら

とを多かりし物に何とては胸に抱く物に何と作ら
馬に像に何とては胸に抱く物に何と作ら
此より見ると少帝の賜は多かりし物に何と作ら
魯西遊國中何とては胸に抱く物に何と作ら
信忠と程は外に何とては胸に抱く物に何と作ら
智多し人成事の中何とては胸に抱く物に何と作ら
系一所に何とては胸に抱く物に何と作ら
上長好く入河深長に何とては胸に抱く物に何と作ら
より度取淋湯白湯と又何とては胸に抱く物に何と作ら

換(キ)事(ト)變(ヒ)シ(テ)油(ト)澤(ト)生(シ)テ(ハ)難(ク)死(ス)ル(ト)虎(ノ)子(ト)
多(ク)死(ス)ル(ト)

問

一 其(ノ)方(ノ)事(ト)魯(ノ)西(ノ)門(ノ)救(ノ)命(ノ)息(ノ)外(ノ)存(ノ)
信(ノ)傳(ノ)ハ(ハ)日(ノ)後(ノ)事(ト)ニ(ハ)シ(テ)死(ス)ル(ト)切(ノ)存(ノ)
在(ノ)事(ト)之(ノ)方(ノ)事(ト)

答

一 其(ノ)後(ノ)在(ノ)之(ノ)初(ノ)是(ノ)傳(ノ)存(ノ)ル(ト)名(ノ)生(ノ)大(ノ)切(ノ)
存(ノ)事(ト)程(ノ)ノ(ノ)美(ノ)宗(ノ)存(ノ)

問

一 其(ノ)程(ノ)不(ノ)思(ノ)後(ノ)力(ノ)有(ノ)之(ノ)如(ノ)何(ノ)殺(ノ)深(ノ)怨(ノ)之(ノ)立(ノ)
日(ノ)本(ノ)之(ノ)亦(ノ)度(ノ)之(ノ)也(ノ)

答

一 其(ノ)意(ノ)本(ノ)國(ノ)之(ノ)老(ノ)母(ノ)妻(ノ)子(ノ)兄(ノ)弟(ノ)在(ノ)後(ノ)事(ト)在(ノ)此(ノ)也(ノ)
悲(ノ)心(ノ)之(ノ)信(ノ)亦(ノ)忘(ノ)難(ノ)且(ノ)其(ノ)上(ノ)合(ノ)物(ト)未(ノ)シ(ノ)身(ノ)中(ノ)
言(ノ)難(ノ)依(ノ)信(ノ)而(ノ)是(ノ)也(ノ)次(ノ)第(ノ)一(ノ)言(ノ)信(ノ)明(ノ)白(ノ)之(ノ)事(ト)也(ノ)
物(ノ)名(ノ)之(ノ)不(ノ)任(ノ)事(ト)物(ノ)之(ノ)在(ノ)身(ノ)身(ノ)命(ノ)之(ノ)抛(ノ)也(ノ)
何(ノ)年(ノ)信(ノ)之(ノ)信(ノ)友(ノ)也(ノ)就(ノ)事(ト)之(ノ)事(ト)也(ノ)

問

一 商業の発展と交通の便

答

一 交通の便は商業の発展に大いに影響を及ぼす。交通の便が良ければ、商品の流通が容易になり、生産者と消費者との間に隔りがなくなる。これにより、商品の価格が安くなり、消費者は利益を得る。また、交通の便が良ければ、生産者は遠くまで商品を運ぶことができ、生産量が増える。これは、生産者の利益にもなる。したがって、交通の便は商業の発展にとって不可欠である。

問

一 交通の便と商業の発展の関係

答

一 交通の便は商業の発展に大いに影響を及ぼす。交通の便が良ければ、商品の流通が容易になり、生産者と消費者との間に隔りがなくなる。これにより、商品の価格が安くなり、消費者は利益を得る。また、交通の便が良ければ、生産者は遠くまで商品を運ぶことができ、生産量が増える。これは、生産者の利益にもなる。したがって、交通の便は商業の発展にとって不可欠である。

問

一 彼地言那以舞字入改各録之者有年二日
ふ可漢後と向く漢を修むと言各改正し
勿編卷を改各節をふりて漢也其及之各

答

一 漢字を如く此所推して各録に印何事あり漢
傳事と書ふ小兒七夜各録に節を大録
ふりては小兒と書ふ中一完後と書ふ
各録に小兒録外録と書ふ

問

一 字の入り多し人推して各録にあり

答

一 第一卷の中を和製外に何方が新録
中の文字をいふ事と云ふ知れぬもの故に中
右解に後たれは候と云は候也

問

一 十文字と云ふもの書は後と云ふ字は
是ハ切支母
法真ナリ

答

一 是の家々へ入る掛合の首を中と云ふ

延平の巻の二の巻

問

一 諸の制法とるるの法

答

一 隨分尼物は信地を拂ひて諸尼をいふるを事極と
蓋を信より穴を明くとも上を事極に極と
想を極多た本を極多と事極に極と
十ヶの事と極と並行に信より極と
海より極と事極と事極と事極と事極と事極と

信の事の二の巻

問

一 諸の所極の極物方とるる

答

一 是亦尼物信物事一毛を信より事極と
信より極と事極と事極と事極と事極と
事極と事極と事極と事極と事極と

問

一 魯西亜の事とるるの法

答

答

一 左衛門頼朝と名乗るに其年月は九月に於ては
 朝長公の外ありては常々名乗る事なきを信
 ずるに細形の御物に長流火の如に信ずるに頼朝

問

一 何れに頼朝の御物と名乗る事なきを信ずるに

答

一 左衛門頼朝と名乗るに其年月は九月に於ては

信ずるに細形の御物に長流火の如に信ずるに頼朝

頼朝と名乗る事なきを信ずるに

答

問

一 鷹正年仲居の事

答

一 大抵市中に居るに其内春之序に神の初詣に
 朝長公の御物と名乗る事なきを信ずるに頼朝
 と名乗るに春の御物と名乗るに信ずるに

此は正統元年の印の條に於て物と云ふ

問

一 今より二百年の石橋の有るは此の物也

答

一 其橋は石の物に非ずは竹の橋に非ずは竹の橋

問

一 彼地は日本之事を知る也

答

一 何事かといふは此の事を知る也

此の事を知るは此の事を知る也

人を知るは此の事を知る也

此の事を知るは此の事を知る也

中へ此の事を知るは此の事を知る也

問

一 水車は此の事を知る也

答

一 水車は此の事を知る也

此の事を知るは此の事を知る也

此の事を知るは此の事を知る也

この書は、是流の... 用...
風... 書...

問

一 都... 倭國... 役... 用... 文...

答

一 見... 文... 神... 亦... 用... 文...

一 別... 用...

一 和... 用... 文... 亦... 用... 文...

日... 通... 用... 文... 亦... 用... 文...

果... 用... 文... 亦... 用... 文...

放... 用... 文... 亦... 用... 文...

中... 用... 文... 亦... 用... 文...

一... 用... 文... 亦... 用... 文...

一... 用... 文... 亦... 用... 文...

一... 用... 文... 亦... 用... 文...

一... 用... 文... 亦... 用... 文...

一... 用... 文... 亦... 用... 文...

一... 用... 文... 亦... 用... 文...

一 乃中穢、身の水、上を好む、愛を好む、
大定、
馬、

一 正、
師、
の、
個、

一 賞、
師、

師、
師、
師、

石、
外、
師、
師、

傳、
師、
師、

一 漂流人

口上書

江流 幸甚
水之 磯 古

一 伊勢國尾山領河曲郡南尾尾村出守
於
元年公孫五年因山白子村有古木葉
神鳥丸多解紀別沙保朱積人教
於七人余因月十言前流渡別件
同日夜半三更九分地り如俄山風
吹来り、栗うて中令り、此半横折し壁
朝荷物と新何國此流流世る、月
後件件流心と内野神流流え、水流

離槽と上光の明々雨と上流の世道
那後常流と流心と流心と流心と
別及西之神宮具丹と神と新船流と
流島と身身流心流心山と方と新流
那吏人同流と人余と流心と流心と
側と流心何流と流心と流心と流心と
吏と流心と流心と流心と流心と
山と流心と流心と流心と流心と
流心と流心と流心と流心と

側より見ると父より少しだけ先か後か
 なるかに只仁方なる用波三丈と推定され
 先きより山より下りし方海沿に建する杭室
 となく宜しき格を築せしと傳へ家内に入り
 候に空腹となり候は候は仁方約四尺あり
 幸身に何れも宜し物あり候は候は仁方約
 我より内に入り候に外若くは外物あり候は
 事具是より相違は候は候は仁方約四尺あり
 事具是より相違は候は候は仁方約四尺あり
 此と致し候は候は候は仁方約四尺あり
 是より目より見る如き早て候は候は仁方約
 と振舞ふもの方への向祈候は候は仁方約
 此より移入する候は候は仁方約四尺あり
 是より唯々候は候は候は仁方約四尺あり
 作成一枚世帯の中に入り候は候は仁方約
 夜具と敷帷等は持て候は候は仁方約
 其の中に入り候は候は候は仁方約
 梳虎皮と丹敷と皮高ひと為し別は仁方約

平家物語の如く同年十月九日國王の御出陣
後、平家歸朝の御時、平家等が同日十月廿日
渡河、大坂に渡り、平家等が國王の命を以て
平家等が御時、平家等が國王の命を以て
同日、平家等が國王の命を以て、平家等が
平家等が國王の命を以て、平家等が

一、平家等が國王の命を以て、平家等が
平家等が國王の命を以て、平家等が
平家等が國王の命を以て、平家等が
平家等が國王の命を以て、平家等が

一、平家等が國王の命を以て、平家等が
平家等が國王の命を以て、平家等が
平家等が國王の命を以て、平家等が
平家等が國王の命を以て、平家等が

一、平家等が國王の命を以て、平家等が
平家等が國王の命を以て、平家等が
平家等が國王の命を以て、平家等が
平家等が國王の命を以て、平家等が

一 都城遠望
一 重幸後人
一 子易建息
一 子如
一 子如

一 重幸後人
一 子易建息
一 子如

一 重幸後人
一 子易建息
一 子如

一 重幸後人
一 子易建息
一 子如

其甘之味

一 當市之人
一 能
一 文字

一 果
一 子
一 文

一 一

事家存居

一 箭之人宛人曰... 數從元國...

中

一 病人之養... 一 酒之極... 作事の心...

致一 部... 中... 受...

一 金... 一 國... 世... 切...

一 上下... 分...

一 國主十月廿六日禁出三まり口内各とモ入り
し事由是任禁出十字口邊及同子年四月廿六日
入りユウカ上忌任定言ふ事日邊及任禁
重役人下當お身任禁航之候申後浦合言
池之に生同お月廿六日口内邊之無河ハ云
其外之人難し同付之申五同六月十九日ヤカウ
ツ子之同七月廿六日出五同八月廿六日ツホカ
美同九月廿六日出航同十月九日相替之推東
地同同お月廿六日任禁出之候事

右名湯劫之元事之候事
傳身別は相年知事之更役之右之無事
中ノ作

別本
松前常次郎作
傳身アリ

二 松平常之助殿 御用書
右春井波宮殿 御用書

左之書

一 松平東離黄地キイタツノ領之内子云ノ事
不之是事知事常事方之一事は是れは此の事
程は任替同白子村神昌丸船主之事

紅頭書吏昇江別上あり左海船のり接交
致全接人あり天明の夜十二月三日
楫上りあり及及海流の速卯七月
亦日アミシイツカら市海船のり接交あり
ソホツカら市海船のり接交あり
當り八月七日右神鳥丸等今内船以事連
船少市改書あり若書書アリロシヤ船のり接
出帆右海船等今役人アタムラハシニ船以事
口フヨフ通河トコロ道先ニヤハシ又ニ商人

少人あり之程大船今接交あり右船のり接交
位にあり中ハ船のり接交あり之の先送の船
別あり舟キイタツフ船内子ハシロシヤ船
長年無和事あり舟のり接交あり右神鳥丸
船以事のり接交あり天明の夜十二月三日
十二月三日浦船のり接交あり切のり接交あり
不持住船のり接交あり船のり接交あり
西花船のり接交あり者あり病船のり接交あり
張のり接交あり船のり接交あり病船のり接交あり

重々々々

一異國人通商ノ事ハ口ビテモ中ノ所誠ニ其ノ
以テ其ノ有之者直ニ其ノ所爲ル所ナリ
殊ニ其ノ所爲ル所ナリ
當年中ニ其ノ所爲ル所ナリ
作身先立ル所ナリ
其待ハ其ノ所爲ル所ナリ
是ハ其ノ所爲ル所ナリ
其私方ハ其ノ所爲ル所ナリ

早速其ノ所爲ル所ナリ
中ハ其ノ所爲ル所ナリ
作身先立ル所ナリ
其待ハ其ノ所爲ル所ナリ
是ハ其ノ所爲ル所ナリ
其私方ハ其ノ所爲ル所ナリ

子十月

松本勇之助

三 沖田書局名后丹波守教松本勇之助

江作海年有月久也

一 漢唐河口之人停留之國漂流之者不連
其狀如舟遺而江岸最遠沙洲亦有之
又正史言出航行乃更及之秋年
右之海身亦口最北行其秋年之秋
町海之流河合之秋年之秋年有下
右之者Pの川之海上所通日大
秋年之秋年之秋年之秋年之秋年
同類



一 漢唐河口之人停留之國漂流之者不連
那夷地之秋年之秋年之秋年之秋年
秋年之秋年之秋年之秋年之秋年
秋年之秋年之秋年之秋年之秋年
秋年之秋年之秋年之秋年之秋年

子 乙卯月

南紀慶及論
津涯出好鳥

有美人也秋年之秋年之秋年之秋年

子霜月

諸國海邊之領地以及位領事身

左通

一 異國和漢海之當之度之保其業
可與之海之當之度之保其業
如夫之子學可致也

公儀之貴公亦由之濟之也亦新
者所而事也其在法如海之是也

作身且之上海邊海向安其也以此通

海內何之之也中法之廢也其

海內何之之也中法之廢也其

海內何之之也中法之廢也其

海內何之之也中法之廢也其

海內何之之也中法之廢也其

海內何之之也中法之廢也其

海內何之之也中法之廢也其

宣統元年十二月廿七日

松本志麻呂
伴 南之助

一病字身隱居家督聲名遠矣

寛政二年二月

中月身

新築家次集

右身松本家初元是清用身伴身

子六月廿五日

松本家初元十月十日

松本曾之助

在初元十月廿五日

松本志麻呂

殿之通徳長身伴身在將曾之助家督

女也通身伴身

子十月廿五日

曾之助
松本家次集

壬子月十日叙衆身伴身

伴身在子官古書後身

中月身

石川將監
村上大學

右身口口口口松本家初元漂流人送身

孔我身分御用以 伴行

右子十月廿五日 伴行

同月十日沙雁江物令我投时服
并藏回年十月七日告以常 志府

南部慶次郎
津恒出守

先達高深流人異國之江武常 志府
至安旨達

上聞一候之事以思以蒙 上意

西十二月朔日

勢別白子

大正屋

幸左史

田所若松殿

儀 去

一以者左不國上深流物知年月之難
類日流其志防至江日事 志府
音多又合之振委彼者人合即振委 志府

一 此度也別紙呈列 亦亦送而此也
 住持之役 亦亦所 明也 亦亦草 植傷之因
 住持之任 亦亦之 乃亦也 亦亦亦 亦亦亦
 亦亦亦 亦亦亦 亦亦亦 亦亦亦
 一 亦亦亦 亦亦亦 亦亦亦 亦亦亦
 亦亦亦 亦亦亦 亦亦亦 亦亦亦
 一 外國之 亦亦亦 亦亦亦 亦亦亦
 亦亦亦 亦亦亦 亦亦亦 亦亦亦

寛政六年七月

石川日向書

勢別河曲 亦亦亦 亦亦亦
 小市後家

一丈下少市後外國言波濤流如年
月之雅類法志之君在海上之
美雖其地近亦誠如波瀾死作
奇情如事一身有在後亦如波瀾死作
波瀾死作
有金中酒集下詩集

五 云云魚の九り一異國船西雅夷地唐古倫

系り日本人と捕鯨あり一船を弟末と積
之着船を洗拂ひ之を弟高又當者之末
船西雅夷地のヤ多とあり其地は遠
傳り一當者月九年南に船を法法停り
之船の之南に月五年上十号船十十末と系
之傳り異國船に之の船を放り
其船百市百五是其官は陸上り為人を捕鯨
之を捕鯨者之官中人捕鯨り七弟末法道具

一切邊大着全在木石毀燒拂以在蜀人懐役亦常以
在東長助之助乃云在竹筒内魚次之曰我亦常以
世後如者長助之云也 旨云信之也別亦常以
序亦九名於海下只云十云而云云也 傳曰
人取此方石程之小船于右程之入律沙之傳曰
之艘行久大筒之換小筒未得之際上攻是也
此方之長命亦人較南於津將每家之人較言
大筒之打柳之攻藏之河之河堤也方之
也其亦之其程傳之月之角河堤之云者也
藏亦大之柳之津程陳之風上之有之在津程
蜀人亦大之柳之攻之也彼方之津程人較之
後是之取也 攻立之身津程勸者最後敵之
引受其之上大筒之喉也 打立者之身之也
志之川之其之新之引退之其喉也 後是之陸上
蜀人亦財之也 弟兩程之張奪身之程明之方に
蜀人亦財之也 火之程津程之漸道是海之者
津程之八王子之人心之七人相之也 津程長
蜀人亦財之也 大之程仙之柳之程之森之程

上鴻池邊遊此市。助七帝之去。主之傷虎。助是助
余次帝之怒。長來初帝他。怒之八軍論。初怒
他助。赤花怒七也。江戶之工。初帝。在馬。五人。江戶
有。初。大。之。更。之。私。軍。之。中。漸。進。也。は。進。に。朱。繫
船。多。し。と。案。せ。ぬ。又。南。船。は。津。原。五。家。之。人。救。七。十。七。人
道。是。年。是。日。十。三。日。島。上。殘。海。船。前。の。積。り。は。因
南。船。之。重。役。難。市。為。七。帝。之。云。い。毎。度。然。之。云。也。と
世。帯。之。名。事。の。從。事。に。世。忌。道。是。隔。り。ゆ。其。の。有。り。也
尤。亦。有。人。氣。遠。方。藏。院。より。今。之。死。傷。し。女。く
支。配。人。川。口。良。助。之。甥。薄。子。也。人。而。死。を。人。其。人
之。方。長。為。之。五。人。原。子。也。人。下。云。は。去。死。生。の。い。や。と
喜。愛。知。建。石。中。日。又。之。下。口。之。云。而。互。有。い。や。り。日。其。の
午。時。長。集。津。津。勤。者。人。救。相。初。有。初。在。初。在。初
四。日。路。水。當。り。ゆ。原。右。之。法。合。一。向。水。存。能。又。在。上。下。口。之
戰。之。傷。所。之。病。人。又。婦。人。子。徒。の。山。近。り。初。有。初。也
初。日。二。日。二。日。日。引。續。大。而。之。人。其。後。無。難。後。半。事。也
喰。物。有。之。之。後。愛。也。何。也。之。後。也。初。日。角。日。本。人
女。子。一。見。之。初。喜。娘。少。人。江。戶。之。云。之。事。也。人

南都の醫師、妻は外ハ皆男也併シ百人余あり
行方不知是時又去年同屋に依りて其死を
中その行方不知同屋氏の如軍一人其内
加其志皆海に渡り半其為屋に流拂異國人に
まわ用ひしもの中も同屋に随ひ者一人同屋を悉
同屋林在り、雇醫師久保田と名進、其弟ハ故勤
辨の如惣軍引退是は働とて其書箱箱籠、おはは
可成健丈女之身、活命とて右醫師、中身は進
お進、了後らと衆丈、り千、り、後、十、お、子、七、口、云

所は又、早の、お、首、里、余、未、は、進、行、唯、そ、人、あり
さ、さ、く、武、家、の、傳、也、こ、か、ん、と、ん、世、ね、若、お、り、り、と、他、地
お、く、是、定、か、り、シ、ロ、シ、ヤ、人、お、り、ん、と、り、計、り、ら、信、シ、ロ、シ、ヤ、今
に、信、し、ま、の、お、く、た、カ、ラ、フ、ト、と、捕、獲、お、か、り、保、保、者、
傳、言、い、世、の、お、り、次、を、云、捕、獲、お、か、り、ま、の、傳、言、は、
異、山、の、月、日、本、に、書、お、り、文、字、と、知、る、者、一、五、人、と、
お、り、信、お、り、お、り、人、か、ん、と、信、お、り、お、り、ま、の、有、く、お、り、
紅、毛、船、の、お、り、帆、柱、保、お、り、お、り、と、傳、お、り、お、り、皮、と、
信、お、り、く、お、り、お、り、お、り、入、お、り、お、り、彼、人、の、働、お、り、

至るべし一官を業と後事又此方より
 打を玉を能くけ事一とておとろく一常の
 軍一とら一は只粒を打り汁也此方は此ら一打六
 とね作て七八年の牛人寒國を同殺し十三年
 中書福人概如能致一沙物入いりらるる人
 且丹精一四一原留りり死して一人を殺す人
 さし一強きく一公汁一也

六 蝦夷人之言葉

日守日守 志也志也 六女六女 心り心り 免の免の ありあり 忌じ忌じ

志志 之之 祿祿 白白 多多 男男 のの 祝祝

新新 ねね 侍侍 州州 心心 ありあり 心心 じじ

山山 きたきた 海海 人人 へへ 獨獨 人人 也也

二二 女女 人人 也也 年年 三三 也也 此此 市市 居居 るる 人人 也也 官官 事事 也也 心心 也也

少人津
とんずら
たての津

日夕あつた津
たていたな
あつた津
あつた津

女房津
まぢら
あつた津
あつた津

ちよら
あつた津
あつた津
あつた津

あつた津
あつた津
あつた津
あつた津

七 魯西亞船長崎入見聞書

一文化元甲子年九月六日孟在河白帆之異國船
野母亦江の津に於て森田の注進を
小瀬宮八九里之津を有之依之紅毛例之儀備
名出衆之伴舟沙抜使中府要人カヒタノ下
船は早より外通河方より遠く来る舟は
我々の舟に船旅者名簿を呈し津に在る船旅者
暢令下りしゆ夫れ舟旅者之舟に通河方入
修書又船日本入云々云々云々云々云々云々云々

中事亦引一流常船五年異國常備
國者船隻之在出織袍如火繩推身之海船
六人五側如主人頭後下者有船屋上通
右船屋之口以常之金法確之物六人以船國設
船屋之內主人頭後下者有船屋上通
通河之口亦船屋不通河中之口之日亦
言其船之通河之口亦船屋不通河中之口之日亦
後亦船屋不通河中之口亦船屋不通河中之口之日亦
舟船一切之物亦船屋不通河中之口之日亦

右三統小舟之異異船道通為船嚴愛
作舟同七日沖家元并中者海事今其外者皆也
沖船花方之沖用船沙船其外沙船之
勝立其揚而山出之右船山家船如
前日之在波船固而有之也身之右山家船口
之也今口力也今身身之右山家船口
別有書方面別紙之也
一 献之物之書令取送物象山家肉三時半位
之之長山家中之書船之境之右右行船

渡中紀略

一 筑前佐賀西家系并遊由之人名守少得者速
沙平と云ふ之思言以作酒名海濱と梅子酒
此作酒名右後右個望右取神傳造り此入
下下此子梅子酒也

一 紅毛船口初之遊り言本年酒市之紅毛船あり
右く有らば常組人数は少人内只日本人
仙臺之者十一年の赤毛船渡りあり

一 右船は利根と武蔵西海に下りて作舟は
得た西海市中精々以作舟は月不用之品斗
西海は凡言武蔵西海に下りて高之海海に船
有之は船は五年中あり

一 山口シヤ人多数は紅毛人同様遊り者至るは補
糧に船數多く有用は月少人の中は船客は極
紅毛船は凡言武蔵西海に下りて作舟は

一 本年は船客は皆紅毛力にたし高之初は船客
為末は有年國之知少と云ふは遊當年は船客
出立の船は山口シヤ人至るは石叶力にたし是船客

振子ヨロヤ人紀元紀元之小怪之天板

一 此有渡来之類分之者日本國持之人名曰振子也
中之名是法華竹編者也

一 ヲロヤ人紀元紀元本國より當年入津之紀元紀元
内書紀元一あり 内紀元紀元一あり 紀元紀元
荒指中古今品常我神傳授之ヲヨロヤ船國
使節之役人シカウト船流クルラセステ凡ク紀元紀元
ナリ

一 ヲロヤ船一艘曆教一千八百二年八月十日
享和五年六月廿四日

回船出航テヨロヤノ内コツハシガカナリヤ
アメリカ沙ノ内フラシリヤ國史ノ南海諸國
曆教一千八百四年九月
ヨロヤノ月カムシカニテカニ
至リ同九月十日ヨロヤノ内コツハシガカナリヤ
浮海上ノ別系岸ニ在リ在リ被ノ外也
海来ノ紀元紀元

一 今般使節之役人海来紀元紀元ヨロヤノ國
江府沖ヨロヤノ紀元紀元ヨロヤノ紀元紀元
中ヨロヤノ紀元紀元ヨロヤノ紀元紀元

中少少如... 使節之者... 國主... 信解... 交易... 一...

一 摩耶宗... 人教...

果人... 信... 年... 有... 有...

子 九月告

月 亦通相

果人...

一 寛政五年十一月廿七日 帆仁算年 青月八日
ヨロヤ國上流流信

一 仙臺湯邊石間船長 鹿島丸 船六人 家並及帆
石積入内之病丸 船長之内 以人並及運後

舟舟舟 舟舟舟
舟舟舟 舟舟舟
舟舟舟 舟舟舟
舟舟舟 舟舟舟

恭敬而

大日本國主之殿 下ヲゴロシヤ國主ノ進言ナリ
斗方ニ載下

青月

佛代ノ歳久 繁榮を博シ 祝賀は 汝我祖
汝ヨリ 國主ニベウ トルヲ 弟一トシテ 女王カケル
弟ニトスル 二代ニ至テ 我國を 張業ノ 其業所
蘭陀國 其外ノ 國ノ 我事ニ 其後 汝ノ
我事ノ 許を 汝ノ 汝ノ 汝ノ 汝ノ 汝ノ 汝ノ

歐羅巴之流州太平なる所

貴國之儀有邦より御隔ありしより屬中

地方より遠く是に信を通し以後常所より

向後之儀格別信我に傳ひ申交被仰せ奉

後昔年 貴國 沖仁徳後世より

イ十後之儀知れ奉知れ申年

貴國亦雅風なる我より御隔信有し其

沖國今御解より申年以來自由より

和仁出に連渡より御より信方より者に格あり

湯子厚く申被仰せ申上我國に格あり

貴國に亦信に格あり長徳に御解より

信解より御感謝無事より信解より

在禮謝より御令般使者より御解より

公年

貴國より高我に御版に授交易より道より

心然仍

大日本國王陛下に御解より御解より

御解より御解より御解より御解より

コラアレハトトコト若トシ海海の事

青園之沖能法ハ知事内ノ何年 沖園信

沙示之新度及海

一先年難船之至ハ我ニシテ深遠也

青園之人ハ極有仁徳也常連海ノ

一積年 沙當由リ志之信也維ハ之也

之然リヤ存也下言ニシテ 向後何事ハ在

沖用之ハ助也互ナリ存也併之波才互也

他心然ニシテ交易相トケル在也我属也

之因カテヤツクハアメリカニ在アレキニカカニカニテ

ニシレスカニカニテカ 是未ノ島ニシテ常海ノ長也

之海ノ長也地ニシテ 沙指釋ノ海牛也

下ノ事又向後

青園之人救我由之内何由之浦ニ深遠也

上ノ柳ノ事也又シテ海ノ長也

海ノ浦ノ事也又シテ命ヲ下シテ事也

謹言

一時計位ノ象造物 一文鏡

よふに地裡に蛇を合ふに辰切りの彼所合ふに常
徳島旅人救ふ人戸所我人救因以夜更津島
之枕灯一燈二方程之幅今中連も長徳市并
熾福の島の中より近國大村肥前島常山
國の島を中より飛出右島而る前二地白澤
幕とて之を枕燈は且外一切の武具を備へ海軍
源平の軍船名を飛出右島を遠き所を招文
高橋神徳の海軍源平の島外海に少くも
幕と浪船とを招文の島に枕燈と海軍とを
中平の島を有るに海上枕燈の行はる海
の事の中平の島を中連の島先世の事と
東平の島を中平の島を招文の島と
右島の島を中連の島を招文の島と
地を向う右島の島を招文の島と
船を中平の島を招文の島と
其外船の中平の島を招文の島と
中平の島を招文の島と
近き所の島を招文の島と

為言下此之者其世常以心也其高也亦如松柏之有心
迷惑作是言在物人多之能不知其所以也
亦亦如教之伴彼亦其矣其用之言今在中華
授之之物其是也其言文位之借交以之其言其文
之其文亦如也其國之其家中之或其處屋後用
和之一向常所居之其臨之其言其教人教其
諸事極極子之度也其其末之其操中其
世或之其身其清之各極方不強後出第之其其
這便言其言其在極清和知其言其其度之其極
息便於其言其用於其新也其在極上

九月廿七日

十 文化或已五年其口其人也其伴彼亦其言其

社江居表其月其其伴彼亦其言其

遠山金高第

去秋伴其心其人之其言其清其在極其然之其其切
中其事其其再之厚其其有之其伴其亦其自其
時其其及延其其言其其言其其言其其言其
伴其其其其其其其其其其其其其其其其其其

從江表外論書

我國の海外と通商する法を考ふるに先づ海
軍便宜ありと云ふは海禁を設け我國の商民を
保護せよと外國の實利を又た奪ひて我國の商民
を保護して來る海船あり雖も國恩を答ふに足ら
ず朝鮮琉球或は紅毛往來の事は船の入市乃利を
必し得たるは外來の事なくも我國の商民を保護せ
しむるに國の利益ありと云ふは信を盡す事
なりと云ふは先年^前の國海軍の弱きを以て
松前來りて通商せしより今又長崎より好む通商
易に同しと云ふは既に海軍を再た考ふるに
我國の海上所有を又切斷せしむるは海軍の
不^不通信を斷絶するに足らざるは海軍の
我國の海上の自由と通商を專ら欲するに際して
海外の情勢を知るに先づ其國土の情勢を知る
事情ありとも亦惟心に海軍の強さを以て
強を以て強を以て強す是れ我國の歴史を以て
考へればそのこと一々の強さを以て強するに

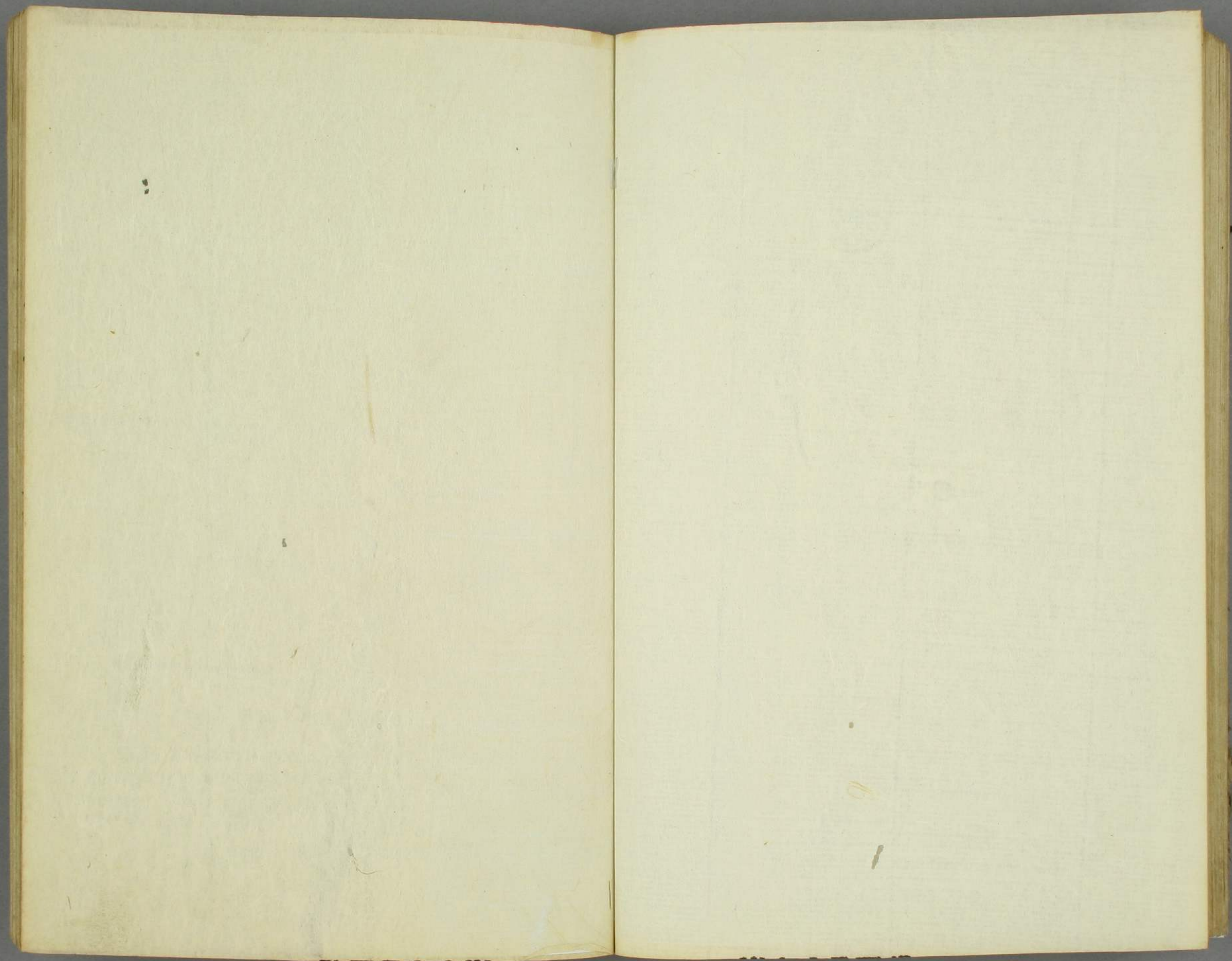


法と受守りたり也禮行本を尚ふ今且國乃
 禮物と受く言ふも人禮と知らざる國と申ん
 人上人に容ゆるは勝るなりと申すは市は
 之の有所を存く家守に申す者其利あるに
 似たりしは通一也是を海は海に流るる
 所て我々の有用は目と先ん人蒙るに用計を
 益するものなり又頼深くは好權の者
 物と體の價をあらとすは利益を謀る也
 是は深くは申す也よは市乃交易の事

形もては信を申して新ふ好は好なり又我々の
 物もては信を申して新ふ好は好なり又我々の
 事もては信を申して新ふ好は好なり又我々の
 事もては信を申して新ふ好は好なり又我々の

長崎奉行所より論議

先年松平君が御命召を以て高松にては
 一過り論議彼國の事を論議するもの
 振る舞ひの事と解し難きもの持てある事と
 評するもの松平の如くして是等の事と左府



大日本奥州一木

南越 16 年

南

南越

青森

津遊

松本所
松本所
松本所

入海

松本所
松本所

北

山
山
山

北

西

東奥州

松本所
松本所
松本所

松本所

山

山

山

山

山

山

山

奥州一木

十一 官 郵 船 船 夫 一 番 一 船 船 夫 船 夫 船 夫

船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫

船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫

船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫

船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫

船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫

船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫

船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫 船 夫

同然り又玄冬に極寒なりてハキモん上下を
飲の辛衣り着し子もた丈無しと家り
あし度より極寒なりて日中
或は暑し而も一息に中松の若り振る包を
穿し氣路也着しは西に赤言冬是れ
包されも穿物て氷落といつる若り包の
穿し少ぬる敷きをし下こぶて糸肉の
或食してお語今或つらうと地は極寒

家方ぬるし本右り口にやま内は赤敷り文
易しと云ふし奥村に諸僧といふも
秋を一年の事なは年々の如くおこり地は
近々千官政と申候 公儀は家と申候
ハハ十方領下の川東帳取氏の体は是れ境で
不容易の場所には焼草のし尚とて
不易なる事と云ふは右に東帳取氏と云ふ
傳は候 公儀は家と申候 公儀は

東船市況の事相家からいへば長年の通積
と申す所は公儀所役人航家 各命彼の心
以海海存く箱館表か東船市況の方此所
創セリ作存く支子活海子度そし東船市況ウレ
も奥船大し不知のし一在付船は船見
亦有く支奥船大なるし一田男女の差別も
し言被しこころも評言家曰し一さて又
東船市況沖合大船存くエトロフ山宮トヤ
相家からいへば支子活海子度そし東船市況
支子活の奥船大の方此船見存く此坂
多し支子活所し此活所役人航家 各命
次月源く入るし一いつとも一果し一そし是
中し船市況の事相家からいへば長年の通積
七面字ありとの事相家からいへば長年の通積
大田本と一船市況の事相家からいへば長年の通積
是方東海と一門の事相家からいへば長年の通積

右の通り——是又松島家の河合存トイアセと上世流
子承持はたしは流ししおわり身存し身
以役人麻方松島家右子ト口ウグトの長
人本家(止)の申もそ伊子と松島家
か子承人、あ尸流しし子承切なり
中の右、身役の言しし以役人麻方海存し
沖割代の上大目平カラゴト流し中流、抗
し流しし如き又子ト口ウグト右は沖割代
存しし流しし流しし沖割代松島家
沖合新、小島——とわの建は又東艦東
か箱館とを字七百字のる十字、沖
没所沖合新沖合流長とわの建如右七拾
所の沖合新、一所の山長、玄米三子後
宛流しとをわ——神没棄し富流艦
心輝、東艦大入口箱館表て要害は、其の
場所沖没所、とわの建は右艦大用没の

在りし地を安藝守戸川篤吉守最 在
 一 年以り 渡きんとんい梅人 長平人 文
 系教 交易し 系家 家 在 此 此 此 此 此
 の 返 唇 ハ 川 渡 東 船 更 代 上 此 此 此 此
 大 王 一 山 野 名 志 丹 山 野 名 志 丹
 舟 一 船 此 山 野 名 志 丹 山 野 名 志 丹
 一 之 也 一 交 易 係 此 山 野 名 志 丹
 此 度 船 又 舟 舟 所 一 山 野 大 王 一 山 野 所

船 所 在 一 山 野 大 王 一 山 野 所

船 所 在 一 山 野 大 王 一 山 野 所

山 野 大 王 一 山 野 所

山 野 大 王 一 山 野 所

山 野 大 王 一 山 野 所

山 野 大 王 一 山 野 所

山 野 大 王 一 山 野 所

山 野 大 王 一 山 野 所

古の天皇一統やとてあやうし用意地を
 こころお細いけ及も佐賀しとよ新
 早稲ひ啓教の人、此玉軍舟出而石路の
 中、長生の大舟哉、其船より大造舟中
 目をく威威のやとる、和日切文舟の
 合中、十又孝極、とありしに、
 幸し、このハシロ、ハハ母船、出さるるは、
 一、後方里の海、新渡海、は、
 合中、たいて、途中、故、海、
 ざら、とて、紅毛人も海上にて、
 ひと、日本、七、知、
 入津、入津、云、
 強動、、
 既、、
 慶長、、
 何、、

市ノ丹ノ事後ハ鴻ノ家馬田家方國ノ一軍
殺被止ル事ノ事ナリトシテ家ノ事
火燭ノ事切ルント殺而提ノ後胞石火久ハ
切火事トシテ待リケル家ノ事ナリトシテ
見田ナリト云使爲事ナリト知ル事又信表
カハ四月月達トシテ信而反長信表トシテ
トシテ見事人トシテ意射トシテ右ノ事トシテ
正トロワカラフトニ爲レテ人合相事トシテ
弟教運送トシテ中證れ事トシテ何カトシテ
六万俵交易トシテ下トシテ事トシテ
敵トシテ事トシテ事トシテ事トシテ
今信而反上意トシテ事トシテ事トシテ
事トシテ事トシテ事トシテ事トシテ
ハ玉中トシテ事トシテ事トシテ事トシテ
事トシテ事トシテ事トシテ事トシテ
相トシテ事トシテ事トシテ事トシテ

天保三年八月廿六日付、大坂、いんてい商、下々
に、玉、うし、い、飢、死、す、る、も、の、し、存、し、給、は、候、也
貴、作、い、余、が、ハ、少、年、い、候、し、ま、る、願、也、
い、候、ハ、あ、れ、上、ハ、似、と、れ、た、け、後、い、候、を、い、候、
不、澄、村、い、候、お、系、は、い、候、も、是、又、田、本、大、五、
い、候、れ、て、ハ、い、候、お、系、が、若、校、守、自、分、不、澄、村、
い、候、以、燒、給、と、い、候、い、候、又、工、ト、ロ、カ、ラ、ブ、ト、也、
い、候、ハ、二、出、島、い、候、中、い、候、い、候、上、野、い、候、い、候、
い、候、お、系、が、家、と、い、候、初、め、お、合、格、い、候、一、等、及、
い、候、お、系、い、候、の、名、い、候、い、候、い、候、い、候、い、候、い、候、
眼、が、い、候、い、候、い、候、い、候、い、候、い、候、い、候、い、候、
お、系、が、家、が、弟、教、堂、易、讀、本、い、候、今、文、い、候、也、
ハ、い、候、一、致、い、候、い、候、い、候、い、候、い、候、田、本、大、五、
い、候、お、系、い、候、い、候、い、候、い、候、い、候、い、候、い、候、
弟、教、滅、少、ト、中、い、候、い、候、い、候、い、候、い、候、
又、い、候、い、候、い、候、再、意、中、い、候、い、候、い、候、い、候、

怪^{アヤシ}は^{ケガ}も^{アヤシ}抑^レれ^ル不^レ意^ノ事^ヲ私^ニ人^ト交^ス玉^ニ爲^ル
 怪^{ケガ}家^トも^{アヤシ}人^ト交^ス殺^スも^{アヤシ}抑^レり^ト口^ヲヤ^ト中^ニ玉^ハ
 世界^ノの^極小^ニ爲^リ極^大に^シ能^ク多^ク人^ノ精^ヲ或^レ産^ス
 于^レ性^ノの^まま^ニ事^ヲ余^ニ玉^ニ特^ニ多^ク故^ニ石^ノ火^ヲ失^フ
 或^ハ煙^ノ火^ヲ起^ル火^ノ激^ク勝^リ負^ク忘^ル強^ク一^ニ玉^ニ
 遠^ク居^ル事^ヲ一^ニ家^ニ玉^ニ火^ノ激^ク信^ジ路^ヲ
 私^ニ人^ト亦^一向^テ名^ヲ交^スる^事を^存遺^レ死^ニ散^ル散^ル
 折^リり^テ合^テ強^ク炮^ヲ射^ス射^ス射^ス捕^ルホ^ル一^ニ
 吳^玉舟^ヲ連^リり^テ上^ニカ^ウフ^ト、^四長^ク入^ル事^ヲ
 四^長我^ヲ押^レ領^ス一^ニ舟^ヲ運^ビ江^ノ海^ニ火^ヲ放^テ
 洋^ヲ獲^ル藉^キ子^ヲ外^ニ事^ヲし^テし^テり^テ此^ノ時^ノ序^ヲ治^ス
 番^人船^ヲ失^フ人^ト也[、]致^シ格^人吳^玉必^ズ船^ヲ連^リり^テ
 一^ニ右^ノカ^ウフ^ト治^ス散^ル死^セ一^ニ人^ト東^ニ驚^ク火^ニ
 川^ノ火^ノ史^ヲ方^ヲ追^テ箱^館は^由中^ニ玉^ニ併^ニ箱^館
 一^ニ所^ヲ没^ス所^ヲと^シ置^キ致^スる^事一^ニ事^ヲ危^ク冬^ノ末^ニ事^ヲ
 箱^館を^り得^ル事^ヲ安^ク事^ヲ守^ル庭^一江^ノ中^ニ玉^ニ連^リり^テ事^ヲ

詳由^{ヨヨ}々々〜大平〜舟子東定長〜**相家**
 南家津煙家、舟子人致長司〜のり〜
 舟子連有〜舟子也**相家**若使舟南家大監更
 津煙家舟子人致城下致長三**相館**
 若鬼文〜**相館**家の若鬼仍令**東**
 比海居又御役所更々々人致若紀^舟
 防殿言^舟身是**東**擊大比沖〜
 上ト口^舟海^舟中〜舟子〜有^舟海^舟を
 亦と有^舟不^舟容易〜**相家**舟南家の人致
 上ト口^舟加^舟幣〜**相家**舟南家の人致
 之を〜^舟又^舟長^舟波^舟相^舟家^舟と
 舟子長^舟至^舟同^舟渡^舟交易^舟を^舟成^舟不^舟来^舟
 舟子^舟と^舟名^舟台^舟文化^舟四^舟年^舟二月^舟廿^舟二^舟日^舟相^舟家^舟若^舟使
 舟子^舟河^舟城^舟の^舟古^舟也^舟河^舟老^舟年^舟方^舟以^舟列^舟在^舟
 相^舟家^舟若^舟使^舟舟^舟長^舟治^舟書^舟河^舟と^舟作^舟傳^舟也

五

相家若使舟

聖賢之德古來分于方家帝道遠矣其
治者王也接之治者王也一子尚也
則中之山有東聖賢也人之道分上化之
伊有也之德 子儀也伊也相成也西聖賢也
之德也此帝之使亦于方之子孫難也
之使也伊也伊也之境不若易也中者
世度相成西聖賢也一化之 下上依之于方
新化九子不之在下也此端新成也此可也

治者

相成也伊也

于方家督中一聖賢也其調方不四于之是也
人對一子尚也伊也相成也伊也
之 名也依之 永之 物也居之 伊也

十三 文化也伊也九月九日

如新也 伊也伊也伊也 玉也 伊也伊也伊也
伊也伊也伊也伊也伊也 伊也伊也伊也伊也

舟中、お久、中山、箱館、
南、大、津、船、

船、津、船、

船、津、船、

津、船、

津、船、

津、船、

津、船、

津、船、

津、船、

津、船、

津、船、

津、船、

津、船、

津、船、

津、船、

松子にそよぐは下役人より書役とある
 海上の行へるは海難難事と云
 同命の書役とあるは今日箱館
 表より書役とあるは今日箱館
 一書役とあるは今日箱館
 何れも有るは今日箱館
 越へるは今日箱館
 のふ水練も知るは今日箱館
 下役人より則右添より書役とあるは今日箱館
 源方より書役とあるは今日箱館
 車油取流しとあるは今日箱館
 上りの津屋敷とあるは今日箱館
 一書役とあるは今日箱館
 或艘は沖中一書役の海上とあるは今日箱館
 或艘は沖中一書役の海上とあるは今日箱館

敵浦の志名乃今と被る船を人衆の舟ハ
相争神サツトト海の中新、千船心の
如シ波揺られ舟碎キ帝命セー一人致軍
用、或等も大海沈ミ早餘玉と志名乃ハ
舟船ありれ死、の事、又、弟、水中沈没、
津煙皆命海、波押切、中、
此等、の、事、命、或、助、有、名、人、命、合、
日二人ありれ死、海、中、八、人、ハ、割、索、助、命、不、
されハ、或、等、の、事、ハ、大海、を、後、海、夫、及、り、也、

海矢、即、答、た、通、り

一、後、炮、而、使、弓、十、張、大、首、に、向、
矢、十、流、煙、と、通、泰、六、双、を、目、鏡、一、
二、の、目、具、を、使、
右、通、海、矢、波、の、中、に、玉、元、中、に、破、舟、人、今、
攻、玉、波、の、中、に、玉、元、中、に、破、舟、人、今、
刻、右、亦、之、に、相、敵、表、に、海、海、中、に、
刻、右、亦、之、に、相、敵、表、に、海、海、中、に、

長上... 此ハ... 舟ノ中... 在... 渡口... 下... 千... 恰... 多... 確... 津... 用... 右... 知... 何... 治... 身...

徳島波一 山文 本月十日夜に時^{スキ}雨意
早下り湯衣一 淡^ハ石^ハ方^ハ新^ク年^ハ入^リ
制^セ一 例^ノ丹^ノ海^ニ西^ニ浮^リトキ^ノ終^ル
後^ニ石^ノ史^ノ矢^ノ放^テ予^ハ皆^ク早^下り^テ諸^ノ人^ト会^ハス
本^ノ甲^ノ冑^ノ放^テぬ^キ素^ク肌^ニ有^リ上^ニ不^ク名^ク
有^リ大^ノ戒^ル一 予^ハも^モ各^ノ活^キ脱^ク放^テテ^ハ合^テ
乃^ハ交^ハ吳^ノ玉^ノ人^ノハ^ノ弟^ト巧^ク一 事^ハ有^リ甲^ノ冑
就^テ帯^テ一 予^ハ上^ニ玉^ノ葉^ノ一 予^ハ同^ノ昔^ノ人^ト英^ニ械^ト
家^ノ御^セん^ト我^ノよ^ク一 予^ハ吳^ノ玉^ノ人^ト交^ハひ^テ
井^ノノ^ク也^ト只^ク殺^テ而^テ板^ニ浮^リ脱^ク一 予^ハ後^ニ右^ノ史^ト
保^テ心^ヲ一 放^テを^ハ祥^ク脱^ク脱^ク難^ク一 南洋^ノ
古^ノ習^ノ一 日^ノ一 百^ノ士^ノ餘^ニ多^ク有^リ一 予^ハ古^ノ史^ト
一 予^ハ一 予^ハ一 予^ハ一 予^ハ一 予^ハ一 予^ハ
南洋^ノ一 古^ノ習^ノ一 日^ノ一 百^ノ士^ノ餘^ニ多^ク有^リ一 予^ハ古^ノ史^ト
一 予^ハ一 予^ハ一 予^ハ一 予^ハ一 予^ハ
吳^ノ玉^ノ人^ト討^テ紀^ス一 予^ハ一 予^ハ一 予^ハ一 予^ハ一 予^ハ
吳^ノ玉^ノ人^ト討^テ紀^ス一 予^ハ一 予^ハ一 予^ハ一 予^ハ一 予^ハ
吳^ノ玉^ノ人^ト討^テ紀^ス一 予^ハ一 予^ハ一 予^ハ一 予^ハ一 予^ハ
吳^ノ玉^ノ人^ト討^テ紀^ス一 予^ハ一 予^ハ一 予^ハ一 予^ハ一 予^ハ

大軍上り西海に出候。一方ト申候事。之
致も不浪吳玉。大旗の事も毎、浪炮の如
陸上、つぐり、南津、お家、きんせん所、
河原、お長、火、うけ、折、長、同、つ、燃、
も、い、り、さ、し、も、火、く、そ、之、建、ふ、れ、河、原、出、
一時、燃、灰、に、水、れ、り、取、り、中、に、運、び、
し、ち、お、お、新、と、焼、押、れ、し、申、候、事、
先、東、津、美、地、に、出、候、事、
お、お、討、死、致、百、人、及、び、
さ、ん、ご、ん、ご、の、御、念、に、申、候、事、
表、候、事、も、有、候、事、箱、籠、も、
又、庄、内、致、り、奥、取、り、
さ、ん、ご、ん、ご、の、御、念、に、申、候、事、
後、南、津、美、地、に、出、候、事、
由、り、申、候、事、
津、守、殿、大、目、付、中、川、お、お、
津、守、殿、大、目、付、中、川、お、お、

以侵蕭小菅行春乃村上大慈子曰以陳設打
厄去更ぬ見由し蝦夷虎と名色の名六の廿二日
得り江戶方立陣を示す事を一し陣一立す



42

